

シンポジウム 棚田の価値と企業・起業

報告テーマと報告者プロフィール



都市・農村の交流で棚田保全

齊藤 滋（さいとう・しげる） 元クラブツーリズム（株）

1951年生まれ。農業との出会いは、20代から広告代理店で15年間大手農機メーカーの広告全般、販売促進、PR誌等の編集のため日本中の基盤整備のされた人口過疎地域を巡りました。40代では、東京都の記念事業で「都市農業振興」を啓発するための32市町村チビッコ農業体験をはじめドイツのクラインガルテン視察、シンポジウム開催、大規模市民農園開設と運営等で3年間、住宅地隣接農地の活用取組に関わりました。旅行会社に移籍後、60代で中山間地の棚田保全と観光振興の良い関係づくりのための取組で、みなさまがたとのご縁ができました。



棚田と古民家によるライフシフト

阿久澤剛樹（あくさわ・ごうき） トロノキハウス・プロデューサー

1964年生まれ。田んぼと陸稲に囲まれた栃木の美しい田舎で高校卒業まで過ごす。大学卒業後ゼネコンに就職。アメリカ、オーストラリアでの計11年間の海外生活を終えて2005年に帰国。外資系不動産投資会社でホテル経営を担当するも、2008年のリーマンショックで公私ともボロボロになり心が折れる。そんな時ふと参加した新潟県十日町の棚田での稲刈り体験で、棚田が人間性と生命力の回復に有効であることを確信。以後、十日町の棚田に通いながら、国内外の棚田を廻る。ホテル経営を生業とする傍ら、棚田地域での活動拠点とすべく古民家改装プロジェクトを進行中。棚田学会評議員、棚田ネットワーク理事。



棚田の仕事

浅田大輔（あさだ・だいすけ） 大山千枚田保存会

1981年4月21日生まれ。日本大学生物資源科学部緑地環境計画学研究室卒。大学生、大学院修士課程時代、大山千枚田に生息する昆虫について調査に没頭していたら、いつの間にかNPO法人大山千枚田保存会に就職して丸10年。ちびっこから農家の爺様、ばあ様まで沢山のたたちと千葉県鴨川市に広がる大山千枚田をベースに活動をしています。NPO法人大山千枚田保存会事務局長。



地域おこし協力隊が定住・起業するために必要なこと

遠藤牧人（えんどう・まきと） 東北芸術工科大学

1961年、東京都新宿区生まれ。上智大学文学部卒業後、出版社営業職、アウトドア雑誌編集者、グラフィックデザイナー、専門学校・大学のデザイン教員を経て、2007年より東北芸術工科大学にて地域連携コーディネーター。以来、「廃校活用と地域教育」で学生指導・全体統括（2007～2010）、同取り組みの報告書冊子『結-YUI-』の取材・編集・デザイン・共著（2009）、『デザインの知』の取材・編集・共著（2010～2011）、サステナブルデザイン国際会議の開催（2011）、産学官連携事業（2011～）等を担当。2012年棚田学会入会、2015年より棚田学会理事。

..... 申込用紙

シンポジウムに参加します。 懇親会(会費3,500円、学生1,500円)にも参加します。

棚田学会入会希望（懇親会参加ご希望の方、また入会ご希望の方は口枠にレ印を付けて下さい。）

お名前 _____

所属 _____

☎ _____

E-mail _____

今後棚田学会の催し物の御案内をご希望の方は、E-メールアドレスをご記入下さい。

申し込み先・FAX. 042-385-1180 E-mail : tanadagakkai@gmail.com(大会事務局専用)